

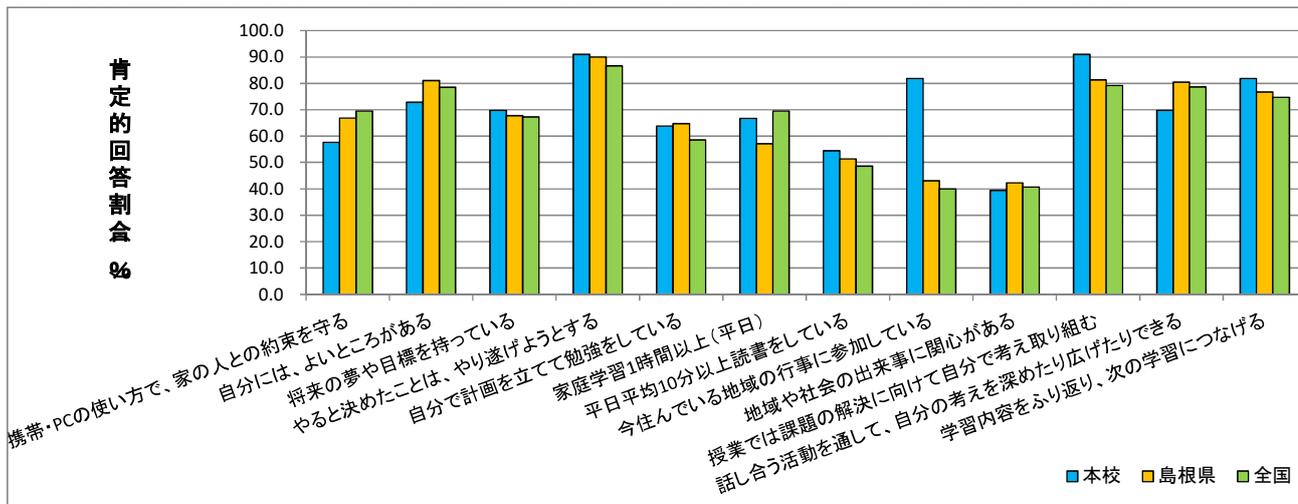
(1)学力調査結果から見られた傾向

|    | 成果と課題(○:成果, ●:課題)  | 対策(・)  |
|----|--|--|
| 国語 | ○漢字の書き取りや、根拠を明らかにして自分の考えを書くことには一定の成果が見られる。<br>●論理の展開に注意して聞いたり、表現を工夫して話したりすること、場面に応じて文章の内容を読み取ることに課題がある。  | ・相手に伝わりやすくするためにどのような工夫をして話せばよいのか、聞くときにはどのようなことに注意して聞けばよいのかなどについての理解を深められる活動を取り入れる。<br>・授業において様々な文章に触れ、場面展開に注意して文章を読み取る力を育成するとともに、日常的に読書の大切さを伝えていく。 |
| 数学 | ○素因数分解や連立方程式などの、基本的な計算問題等の平均正答率が高い。<br>●事象を数学的に解釈したり、根拠を示して説明したりする問題に対する正答率が低く、無回答率も高い。  | ・書く力、説明する力が向上するように、授業の中でグループ活動等を活用し、説明する場面を意図的につくっていく。その際、生徒の習熟度に配慮した課題にする等、工夫をする。<br>・難しい問題を、すぐに諦めてしまわないように、ヒント等を出しながら取り組みませ、自分で解けた経験を増やしていく。     |
| 理科 | ○脊椎動物や昆虫類など身近な動物についての思考判断力が身に付いている。地域の自然に親しみ、自然について理解を深めている。<br>●気象に関する知識や思考・判断に課題が見られる。予想や仮説と異なった結果が出た場合にその意味を説明したり、考察の妥当性を確かめる実験を計画し、改善した実験を見通すことに課題がある。 | ・地球に関する知識や思考・判断に課題が見られるので、身の回りで見られる現象を観測結果から理解したり、説明したりする力を育成する。そのためにビデオ録画などで身近な現象の映像を見せながら、考えさせる授業を構築していく。  |

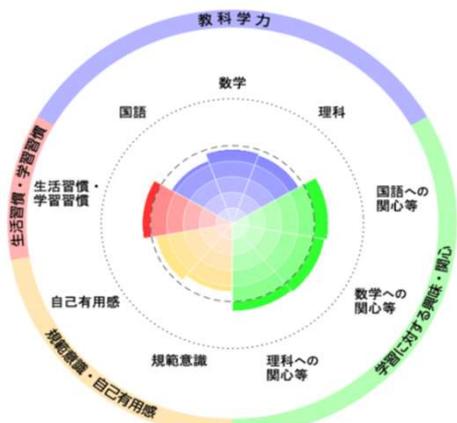
(2)生徒質問紙調査から見られた傾向

|     | 成果と課題(○:成果, ●:課題)  | 対策(・)   |
|-----|--|---|
| 質問紙 | ○授業では、課題解決に向けて自分で考えることや、振り返りを通して次の学習につなげることに係る項目が全国、県平均正答率ともに上回っていることから、個人の能力を高めることに意欲的な姿勢が見られる。<br>●自己肯定感や活動を通して自分の考えを深めたり広げたりする力が全国、県平均正答率を下回っている。 | ・自分の思いや考えを自信をもって人に伝えることができるように、スモールステップを学習活動に取り入れる。<br>・グループ活動やペア活動など、人と関わる活動を積極的に取り入れ、安心して自分の考えを伝えたり、人の考えを受け入れたりする雰囲気をつくる。 |

(3)生徒質問紙調査結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)



(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・メディア使用時間やルールについて保護者と連携し、正しい使い方について学ぶ機会を継続的に設ける。  
・毎学期の学習コンクール(英数国)や、毎日の自主学習を通して基礎学力の定着を図る。

【受検者数】

33 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。